

## 「のべおか子どもセンター」17年目の活動報告

九州保健福祉大学 社会福祉学研究所

安原青児、松原由美、正野知基

延岡市教育委員会 社会教育課 社会教育係

串間信之

延岡市教育委員会 社会教育指導員

二見豊

### はじめに

例年通り、QOL 研究機構社会福祉学研究所と延岡市教育委員会（社会教育課）の連携事業「のべおか子どもセンター」（＝以下、センター）の今年度の活動報告を行う。センターは通算 17 年の活動実績がある。その目的であるが、第一に近年、対応策が見出せない少子高齢化、家族形態の多様化、共働き世代の増加等、社会情勢の変化に伴い、児童を取り巻く環境の急速な変化等の社会背景を踏まえ、子どもたちに確かな学力と豊かな心を育む体験活動の重要性が求められ、「主体的に生きる力」を培うということである。第二には、家庭及び地域の子育て機能再生のため、保護者への子育て相談を含めた支援の必要性が挙げられる。この点は国も新たに「家庭教育支援チーム」<sup>1)</sup>の名称で、家庭と地域、学校をつなぐ様々な人材や関係機関が連携するシステムの構築を各地域、自治体に求めている。地域で子育て支援を担うセンターにとって、あらためて子育てや家庭教育の見直しを考える時期に来ている。子育て支援は永遠に継続されるものではなく、親子の育ちを支え、親子が自立していけるようにサポートすることが本来的な目的であろう。今年度もその点を踏まえ、センターへの新たな参加者を迎えながら、新鮮な気持ちで活動を継続させてきた。ここに 17 年目の活動報告を行う。

### 第 1 章 親子体験活動

#### 1. 実施内容（3 本柱）と運営委員会組織

センターが 17 年間にわたって継続して掲げている 3 本柱とは、①親子体験活動、②子どもと保護者のための地域情報誌の発行、③子育て支援（講話及び相談）である。今年度の子育て講話は 3 学部 4 学科の協力を得て実施された。本学の QOL 研究機構社会福祉学研究所長をセンター長として延岡市教育委員会（社会教育課）が事務局を担当するセンター運営委員会は、外部委員が 10 名、本学教員 2 名の計 12 名で組織された。また本学学生も本学ボランティアセンターの協力の下、ボランティアスタッフとして例年通り参加し、貴重な戦力として 1 年間センターの活動に関わってきたことを付け加えておく。

## 2. 親子体験活動のテーマと全体の参加者累計

### (1) 親子体験活動、子育て講話、運営委員会の日程と参加者数など

親子とは、延岡市内を中心に県北地区の小学生までの子どもとその保護者を対象とする。また、子育て講話とは、親子体験活動が開催される際に、本学の 3 学部 4 学科から教員を講師派遣してもらい、それぞれの専門研究領域から、子育てに役に立つ保護者向けのミニ講話（30 分）をしてもらうものである。大学教員のそれぞれの専門的アドバイスがもらえるとして、毎月好評である。なお今年度も、体験活動は参加できないが子育て講話だけでも聴きたいとの問い合わせや参加者がいた。表 1 は平成 30 年度の活動状況の一覧である。

表 1 平成 30 年度 のべおか子どもセンター活動状況（参加者内訳含む）

日 時		活 動 内 容	会 場
4/19(木)	19:00	第1回運営委員会	九州保健福祉大学
5/24(木)	18:30	キッズワールド 58 号 第1回編集会議	社会教育センター
	19:30	第2回運営委員会	
6/12(火)	19:00	キッズワールド 58 号 第2回編集会議	社会教育センター
6/30(土)	9:30	6月親子体験活動 「星に願いを ～七夕飾りを作って飾ろう～」 大人 28 名 子ども 31 名 計 59 名(22 家族)	社会教育センター
	11:30	子育て講話「子どもの歯ならびと健口」 母 11 名 父 2 名 計 13 名 講師:言語聴覚療法学科 中村真理子先生	
7/5(木)	19:30	第3回運営委員会	社会教育センター
7/10(火)		キッズワールド 58 号 配付	
8/18(土)	9:30	8月親子体験活動「夏休みの工作」 大人 23 名 子ども 38 名 計 61 名(23 家族)	社会教育センター
	1130	子育て講話「健やかな視機能を育むために」 母 15 名 父 2 名 祖母 1 名 計 18 名 講師:視機能療法学科 田村省悟先生	

8/28(火)	19:30	第 4 回運営委員会	社会教育センター
9/22(土)	9:30	9 月親子体験活動「親子クッキング手打ちうどん」 大人 19 名 子ども 24 名 計 43 名(16 家族)	社会教育センター
	11:30	子育て講話「子どものころを育てるコミュニケーション」母 15 名 父 4 名 計 19 名 講師:言語聴覚療法学科 戸高翼先生	
9/27(木)	19:30	第 5 回運営委員会	社会教育センター
10/16(火)	18:00	キッズワールド 59 号 第1回編集会議	社会教育センター
11/10(土)	9:30	11 月親子体験活動「秋を楽しむ」 大人 18 名 子ども 26 名 計 44 名(15 家族)	むかばき 青少年自然の家
	11:30	子育て講話「子どもの身近な事故について」 母12 名 父 6 名 計 18 名 講師:臨床福祉学科 稲田弘子先生	
11/15(木)	18:30	キッズワールド 59 号 第 2 回編集会議	社会教育センター
	19:30	第 6 回運営委員会	
12/4(火)		キッズワールド 59 号 配付	
12/15(土)	9:30	12 月親子体験活動「親子でベッタンもちつき大会」 大人 30 名 子ども 38 名 計 68 名(24 家族)	社会教育センター
	11:30	子育て講話「子どもと一緒に育っていこう」 母 20 名 父 7 名 祖母 1 名 計 28 名 講師:臨床福祉学科 田中陽子先生	
12/20(木)	19:30	第 7 回運営委員会	社会教育センター
1/15(火)	18:30	キッズワールド 60 号 第1回編集会議	社会教育センター
1/17(木)	19:30	第 8 回運営委員会	社会教育センター

## **(2) 親子体験活動のイベント内容（6月 8月 9月 11月 12月 2月）**

今年度の6回のイベントについて写真を見ながら振り返りたい（2月は省略）。

### **【6月 星に願いを ～七夕飾りを作って飾ろう！】**

センター恒例のイベント「七夕飾り」の活動を今年度も多数の参加者を迎えて開催した。ボランティアスタッフの大学生も各班に入り、一人の保護者が複数の子どもを連れて参加している場合など、学生たちが丁寧にサポートして支援が行き届いていた。

センターは親子体験活動の場であるとともに、学生教育の一環であるともいえるだろう。



（家族みんなで参加し、飾りを折る）



（親子で楽しく、笹に飾り付ける）

### **【8月 夏休みの工作～君だけのオリジナル風鈴を作って飾ろう！】**

今年度は地域で活躍する工作の講師を迎えて、夏らしく風鈴を手作りした。陽に透けるトランスパレントという特別な紙が用意され、透明カップに張り付けたり貝殻を鈴とともに重しにつけるなど、各自が世界に一つだけの風鈴を完成させた。また、いくつかの風鈴をつなげてモビールにするなど、さらに創意工夫する参加者の姿も見られ、親子の作業中の会話も弾んでいたようである。



（幼い子も手伝ってもらいながら一生懸命）



（完成作品を誇らしげに掲げる参加者たち）

### 【9 月 親子クッキング 手打ちうどんに挑戦！】

9 月は、人気の高い親子クッキングを計画した。数年前に取り組んで実績のある手打ちうどん作りは人気イベントのひとつだ。子どもたちは講師である運営委員からうどんのこね方や伸ばし方を教わり、危ないからと敬遠されがちな包丁も使い、親子でおいしい手打ちうどんを完成させ、みんなで食べることができた。センターでは親子クッキングへの父親の参加も年々増えている。



(うどんの作り方を教わる子どもたち)



(包丁をしっかりと使いこなす)

### 【11 月 むかばきで秋を楽しもう！】

11 月は、むかばき青少年自然の家の野外炊飯場で、親子でツイストパンを作る活動や周辺の自然を楽しみながら追跡ハイキングを計画した。当日は天候にも恵まれ、美しくすがすがしい自然の中で食べる手作りパンの味は格別だった。また保護者が子育て講話に参加している間、子どもたちはマシュマロを焼いたり、野外活動に熱中した。普段は親に甘えるであろう年齢の幼児も、ひと時、親から離れて友達と元気に遊ぶ姿が見られた。



(野外で作ったツイストパンはおいしい)



(ハイキングの途中にはゲームもある)

### 【12月 親子でぺったん もちつき大会！】

冬季の子どもセンター恒例の餅つき大会である。今年度は子ども保育福祉学科松原ゼミの4年生が積極的に参加し、加えて社会教育指導員たちも応援に加わるなど、いろいろな方々の協力を得て餅つきを楽しんだ。ついた餅は、その場でいただくとともに、お土産としての持ち帰りもあり、参加者にとってはうれしい限りである。運営委員やスタッフの手際も良く時間通りのスケジュールで活動を終えることができた。なお、子育て講話中は前述した学生たちによる子どもたちとの遊びや手作り絵本の読み聞かせ等も行われた。



(子ども用の杵を使って、ぺったんこ)



(私も上手に丸められるよ！！)

### 【2月 親子クッキング】

\*2月9日(土)10:00~12:30 に実施予定であるが、本報では省略する。

### (3) 平成 30 年度 イベントアンケート集計結果

表 2 年間イベントアンケートまとめ



## 親子体験活動アンケート結果

平成30年度 6月～12月集計結果

質問① 今回の親子体験活動は、何を通じてお知りになりましたか？(複数回答有)

イベントのチラシ	84%	83 人
夕刊デイリー新聞	1%	1 人
FM のべおか	1%	1 人
市のホームページ	0%	0 人
友人、知人	7%	7 人
その他(学校からのプリント)	5%	5 人
未回答	2%	2 人
計		99 人

イベント 参加人数	100 家族
大人	118 人
子ども	157 人
合計	275 人

質問② これまでにも、子どもセンターの親子体験活動に参加したことはありますか？

今回が初めて	45%	39 人
今回で2回目	17%	15 人
今回で3回目	16%	14 人
今回で4回目	5%	4 人
今回で5回目	5%	4 人
今回で6回目以上	2%	2 人
2回目以上だが未記入	9%	8 人
計		86 人

質問③ 今回、参加したきっかけは何ですか？(複数回答有)

面白そうだったから	13 人	他の親たちと交流したかったから	0 人
親子でふれあいたかったから	8 人	子どもが行きたがったから	3 人
子育て講話を聞いたかったから	3 人	その他	0 人
		未記入	1 人

質問④ 今回の親子体験活動の内容はいかがでしたか？

	満足		どちらか といえば 満足		普通		どちらか といえば 不満足		不満足		未記入		計	
内容	86%	87人	9%	9人	2%	2人	0%	0人	0%	0人	3%	3人	100%	101人
開始時刻	81%	82人	12%	12人	4%	4人	0%	0人	0%	0人	3%	3人	100%	101人
活動時間の長さ	77%	78人	13%	13人	4%	4人	3%	3人	0%	0人	3%	3人	100%	101人
スタッフの対応	86%	87人	9%	9人	2%	2人	0%	0人	0%	0人	3%	3人	100%	101人

質問⑤ 子どもセンター以外で行われている、子どもとふれあう体験活動に参加したことがありますか？(未回答者あり)

ある	44%	44人
ない	52%	53人
未記入	4%	4人
計	100%	101人

質問⑥ 土曜日と日曜日のどちらが参加しやすいですか？(未回答者あり)

土曜日の方が参加しやすい	49%	49人
日曜日の方が参加しやすい	6%	6人
どちらでもよい	41%	41人
未記入	4%	4人
計	100%	100人

質問⑦ 今後、どのような親子体験活動を希望されますか？(複数回答有)

親子クッキング	73人	運動遊び	38人
工作	50人	レクリエーション・ゲーム	32人
自然体験	59人	地域に出かける活動	23人
父親参加型の活動	14人	伝統的な活動	21人
音楽・リズム	29人	未記入	5人



**質問⑧ のべおか子どもセンターへの、ご要望、ご感想、ご相談したいことなど、ご自由にお書きください。 ○＝好評 ●・▲＝課題**

≪ 6月30日(土) 「星に願いを～七夕飾りを作って飾ろう～」 ≫

○	毎年、七夕のイベントを楽しみに来ています。おみやげもうれしいです。
○	いつもお世話になっています。今度また機会がありましたら、参加したいです。ありがとうございました。
○	今日はありがとうございました。とても楽しい時間でした。小さい子ども連れでも丁寧に対応していただき、助かりました。
○	親子でさんかできるイベントは楽しめます。ありがとうございました。
○	とっても楽しかったです。
○	とても楽しかったです。ありがとうございました。
○	作業に参加できない小さい子の相手もしていただけてとても良いと思いました。
○	楽しく参加することができました。
○	毎回楽しく参加させて頂いてます。ありがとうございます。
▲	タイムスケジュールや声掛けがもって欲しかった。

≪ 8月18日(土) 「夏休みの工作～君だけのオリジナル風鈴を作って飾ろう～」 ≫

○	とっても楽しかったです。また来たいです。
○	とても楽しく作ることができました。材料も身近にある物で作れるので、いい経験になったと思います。
○	子どもと楽しく製作でき、楽しかったです。また参加したいと思います。
○	おもしろかった。子どもも楽しそうでした。
○	親子で楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。
○	初めて参加しましたが、楽しくできました。ありがとうございました。
○	初めて参加しました。子どもたちも初めての環境で最初は緊張したようでしたが、楽しく工作をできました。 家で工作をすると準備が大変なのでいろんな道具を使って遊べておもしろかったです。
○	子どもと楽しく作ることができました。家に飾るのが楽しみです。ありがとうございました。
○	いつもたくさんの体験ができて光栄です。またの機会を楽しみにしています。

《 9 月 2 2 日(土) 「手打ちうどんに挑戦」 》

●	うどんをゆでる時間が足りなかったので、もっと時間に余裕があればいいと思いました。子どもはうどんをこねたり足で踏んだりとても楽しかったようです。
○	時間がかかりましたが、とても良い体験ができました。はじめてうどんを作りましたが、おもしろかったです。子どもが喜びました。ぜひ家でも作ってみたいです。
○	参加費が安いので参加しやすいです。ステンドグラスの壁かけが楽しかったです。
○	うどん作り、とても楽しかったです。子どもは体力がつきて、大人の方がわくわくして楽しんでいたのかもしれない(笑)。最後まで笑いまじりで楽しい時間を過ごすことができました。
○	ありがとうございました。
○	初めての参加でしたが、とても楽しくできました。他の学校のお父さんお母さん子ども達とは、なかなか交流がないので、とても楽しかったです。また参加してみたいと思います。お父さんの参加率が高いのにビックリでした！
○	たのしかった。
○	いつもありがとうございます。いつも大満足です。

《 1 1 月 1 0 日(土) 「むかばき 親子で秋を楽しもう！」 》

○	なかなか自分達では体験できない貴重な体験をさせて頂き、本当に感謝しています。季節ごとにこれからも色々参加させてもらって子どもの良い刺激となれば良いなと思います。
○	パンづくり、とっても楽しかったです！！ おうちでやってみます！！
○	今後もこのような活動を続けてほしいです。
○	とても楽しかったです。ありがとうございました。
○	行滕登山に親子で挑戦してみたいです。

《 1 2 月 1 5 日(土) 「親子でぺったん！ もちつき大会」 》

○	親子で楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。
○	また、これからもいろいろな活動をして欲しい。
○	たのしかったです。おいしかったです。
○	おもちつき楽しかったです。
○	たのしかった。
○	おもちをまるめるのがたのしかったです。おもちが大きいです
○	孫と一緒にもちつきが出来て楽しかったです。

○	楽しかったです。また来たいです。
○	いつも企画運営して下さり、本当に有難く思っています。今回も当選して楽しみにしていました。 子どもが何度もおもちゃをつかせてもらい、とても楽しかったようでした。
○	とても楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。毎年恒例にしていただけだと嬉しいです。
○	私も子どもも楽しかったです。こういう機会があればまた参加したいと思います。
○	めったにできない体験をすることができ、日本の伝統にふれることにも今日はこれでよかったと思いました。 また機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました。
○	私も子どもも楽しかったです。こういう機会があればまた参加したいと思います。
○	めっちゃ たのしかったです。
○	ぜんざいのおもちがたくさんで、おいしかったです。ありがとうございました。
○	大根のつけものがとてもおいしかったです。レシピが知りたいです。
○	もちつき大会とても楽しかったです。子どものやる気がどんどん出てきて、おもちゃが出来上がっていく楽しさをたくさんの方々と体験させて頂いて、ありがとうございました。
●	屋内ですと思っていたので、もう少し防寒対策をしてくればよかったと思った。活動場所(屋内・屋外)とかも分かったら服装も考えるので、事前に教えて欲しい。(粉がつくので、汚れてもよい服装とか etc )

## 第2章 子育て講話

### (1) 子育て講話実施の意義と目的

子育て支援の一環として、本学の専門性を生かした定期的な子育て講話の開催は、延岡市に本学があるが故のセンター独自の取り組みである。大学の先端的な知の宝庫を地域に還元することは、市民にとって大きな財産である。センター利用者は幼児から児童の子どもを持つ保護者が対象であり、講話は貴重な30分である。

今年度の講話を担当した教員は、保健科学部言語聴覚療法学科の中村真理子先生、戸高翼先生、保健科学部視機能療法学科の田村省悟先生、社会福祉学部臨床福祉学科の稲田弘子先生、田中陽子先生、薬学部薬学科の瀬戸口奈央先生(2月実施予定)の計6名である。本学各学部各学科にはセンターに対するご理解とご協力をいただき、大変ありがたい。

## (2) 子育て講話年間アンケート

ここでは紙面の都合もあり、年間の状況をまとめて表 3 に示し、子育て講話の報告とする。自由記述ではひらがな表記もあるが、参加者の記述をできる限りそのまま掲載する。

表 3 6 月～12 月の子育て講話参加状況とアンケート結果

# 子育て講話 アンケート集計結果 （平成 30 年 6 月～12 月）

質問① これまでに子どもセンターの子育て講話に参加したことはありますか？

今回が初めて	55%	52 人
今回で2回目	16%	15 人
今回で3回目	14%	13 人
今回で4回目	3%	3 人
今回で5回目	3%	3 人
今回で6回目	3%	3 人
回数不明	6%	6 人
計	100%	95 人

講話参加人数	
母親	73 人
父親	21 人
祖母	2 人
合計	96 人

アンケート回答数
95

質問② 今回の子育て講話の内容はいかがでしたか？

	満足		どちらかといえは満足		普通		どちらかといえは不満足		不満足		未記入		計	
講話の内容	64%	61 人	26%	25 人	6%	6 人	0%	0 人	0%	0 人	3%	3 人	100%	95 人

<p>質問③ 本日の講話に対するご意見、ご感想などご自由にお書きください。</p> <p>○＝好評    ●＝課題</p>	
【中村 真理子先生の講話後アンケート】	
○	定期的に歯科に通うようにしたい。
○	虫歯に気をつけるだけではなく、歯並びにも気をつけて日頃見ていかなければならないと実感しました。専門家の方から話を聞け、また気軽に質問を受けてくださり、大変良い機会となりました。
○	勉強になりました。ありがとうございました。
○	興味のあることなので、とても勉強になりました。
○	内容(言葉)が少しむずかしかったのですが写真があったので分かりやすかったです。
○	子どもの歯並びが悪いので、再度気になった。ためになった。
○	指しゃぶりで歯並びが変わったりするんだなあと参考になりました。
○	歯列矯正は大きくなってからでも大丈夫と思っていたので、急に不安になりました。
【田村 省悟先生の講話後アンケート】	
○	講座を聞いて、視機能の仕組み、異常がとてもよく理解できて勉強になりました。
○	3歳の娘がいるので今度健診を受けてみるのが楽しみです。若い年齢の時に見つかるのと良いとのことですので、きちんと受けようと思います。
○	未熟児で産まれたので心配していました。今のところ異常はない様なので安心していきます。
○	とても分かりやすく勉強になりました。早い時期に気づいてあげることが大事だとわかりました。定期的に家でチェックしようと思います。
○	子どもの視機能の異常について知れてよかったです。自分の子どもが遠視・斜視なので知識があればもっと早く気づいていたなと思った。
○	眼科に行ったことがなく、目についての専門的な話を聞くことができ勉強になりました。
○	以前もこの講話を聞いたことがありました。忘れていた部分もありましたので、また改めて子どもの目をよく見てみようと思いました。
○	幼児期の視機能の発達の重要性がわかりやすかったです。
○	子どもの目の病気の種類を知ることができてよかった。
○	今日はすごく勉強になりました。帰って孫に検査してみます。
○	自分ではわからない事ばかりだったので、今後自分の周りの子どもたちも気をつけて見てあげたいです。

●	乳幼児に関する事が主だったような感じなので、児童(小学生)からのことについても聞きたかったです。
【戸高 翼先生の講話後アンケート】	
○	コミュニケーションをとるために、間違えた言い方を沢山しました。今日聞いた講座を自分なりに理解し、子どもと接していきたいです。
○	子どもとの接し方で、とても参考になりました。指示的ことば、ほめ方、怒るではなく叱る、ドキッとさせられるお話ばかりでした。
○	自分でできているなと思うところと、「あー、できていないな。」と思う部分があったので、とても勉強になりました。
○	分かりやすく聞きやすく勉強になりました。また、こういう機会があれば参加したいです。
○	「一度相手の言う事に共感する」がよかった。実行してみたい。
○	日頃の子どもとの会話を見つめ直しました。過去否定型の話は、よく使っているなと反省しました。ちょっとしたことでイライラすると「怒る」ことも多く、「叱る」ことができていないと思います。余裕のある生活ではないのかもしれませんが。少し深呼吸して、今日の講演を思い出して、明日1個改善できるといいなと思います。
○	普段忙しくて時間に追われていて、子どもの話をゆっくりと聞いてあげれていないと反省しました。
○	子どもを上手に叱るよう心がけたいと思います。
○	自分の振り返りになりました。実際子どもが困った行動、お友達に向けて「あいつ好かん」とイライラしたりした時、集団の場である程度我慢させる必要がある時、感情的にならず、いさめても効果がない時、本当に困ります。年上の子がある程度(内容にもよりますが)我慢する等、協調性がないなあといつも困ってます。
○	未来・肯定型を意識して子どもと接したいです。
○	共感＝肯定ではない。という言葉が胸にひびきました。怒る→叱るへのシフトチェンジ、難しいけど努力しようと思います。
○	参考になりました。頭では分かっているんですが、なかなか気持ちを切りかえる事ができないところです。
○	限られた時間の中で、子どもとコミュニケーションを取る方法、また叱り方を学ぶことができ、大変参考になりました。実践してみたいと思います。
○	日常的には慣れてしまっている事に初心に戻りました。ありがとうございました。

【稲田 弘子先生の講話後アンケート】	
<input type="radio"/>	子どもの冒険したいという思いを大切にしていきたいと思いました。
<input type="radio"/>	危険だからやらせないじゃなく見守ることも大事。色々な経験させることも大切。
<input type="radio"/>	短い時間の中、大変勉強になる講話をありがとうございました。
<input type="radio"/>	子どもの事故について、詳しく知る事が出来たので、勉強になりました。
<input type="radio"/>	今まで知らない知識が分かり、勉強になりました。
<input type="radio"/>	事故などに対する再認識ができてよかったです。
<input type="radio"/>	これからも、どんどんリスク(許容される危険)に挑戦させていきたいと思いました。 ただ、ハザードにも注意して。
<input type="radio"/>	子どもの安全に対する意識があらためて高まったと思います。下がまだ2才なので、特に気を付けます。
<input type="radio"/>	具体的に色々な事例や対処法を教えて頂き、参考になりました。
<input type="radio"/>	今回の勉強で、自分の子どもはもちろどこでどんな事故があるか分からないので、他の子どもを救えることにつながると思います。
<input type="radio"/>	子どもは、安全を確保しながら沢山遊ばせたいです。
<input type="radio"/>	今日もらった資料は、家の目につくところにはっておきます。
<input type="radio"/>	とても大切なお話を聞けてよかったです。これからの子育てに生かしていきたいと思いました。
<input type="radio"/>	やけどについて勉強になりました。
<input type="radio"/>	タバコを誤飲した場合、”水分をとらせない”ということは知りませんでした。勉強になりました。
<input checked="" type="radio"/>	割りと小さい年齢の子どもに対する対応だったので、もう少し上の子に多いけが・熱中などの対応もお聞きしたかったです。
<input checked="" type="radio"/>	応急手当を色々もっとくわしく聞きたかったです。
【田中 陽子先生の講話後アンケート】	
<input type="radio"/>	子どもをしかるのではなく、親の怒りをコントロールできるようにします。
<input type="radio"/>	子どもに対してイライラするのは、みんな一緒なんだなと安心しました。
<input type="radio"/>	勉強になりました。やって欲しいことを先ず親がやってみる。意識してみたいと思います。すぐ怒鳴ってしまいがちです。
<input type="radio"/>	6秒ルールで落ち着けると良いなと思います。
<input type="radio"/>	ありがとうございました。
<input type="radio"/>	大人の態度次第で子どもは変わるんですね。もう少し自分の考え方を変えていこうと思います。がんばっている私…。冷蔵庫にはってみます。

○	なかなかアンガーマネジメントは難しいです。ただ、子どもも色々と考えているんだなと改めて考えさせられました。
○	6秒も待てるかな。と思いながら聞いていたけど、実際に深呼吸してみたら、あっという間だったので、今後はぜひ実践してみたいと思いました。また、ヨシタケシンスケの絵本を読んで笑えなかったら疲れている。と言われたのには、はっとさせられました。
○	お優しい話し方、お声、雰囲気で大変聞きやすかったです。ありがとうございました。
○	絵本を読んでみようと思います。
○	6秒は思ったよりも短かったので、実行しようと思いました。
○	日常生活においては習慣化してしまい、意識して声を発する・表情に出すとかいう事をしなくなっている。子どもは親の行動を見て育つという事を思えば、今一度夫婦で努めて行きたいと思います。
○	田中先生のほんわか口調で、すーっと心に言葉が入ってきました。ご飯を食べないのでもいつもイライラ顔でご飯を食べていましたが、『子どもはすごく親を見ている』という先生の言葉にハッとしました。あと、『切り替えるところを見せる』というのもすごく良いですね！子どもが大きくなってなかなか勉強を始めないときなどに、今の時期(3才)からその切り替えを身に付けさせておくと、今後楽だなあとと思いました(笑)。
○	いろいろアドバイスを教えていただいてよかったと思います。
○	とてもためになるお話でした。子ども達と一緒に楽しい事をたくさんしていきたいと思いました。ありがとうございました。
○	とても勉強になり、楽しい講話でした。・子どもは親をよく見ている(ハッとしました)・子どもと楽しむ(キャンペーン考えてやってみます)・イラッとしたら・・・(職場でもやってみます)
○	子どもは親をよくみているということをつい忘れがち。子どもの気持ちや習慣を良い方向へ持っていきたいならばまず、親自身がそう接する事が必要と改めて学べたと思います。今日は本当にくる事ができて良かったです。ありがとうございました。
○	とてもお話が聞きやすかったと思います。
○	わかっていても出来ていないことを改めて気づかされました。ありがとうございました。
○	日頃、子育てに関する話を聞ける事がなかったので、とても参考になりました。少し力を抜いてもいいんだなと思うようになりました。先生の穏やかなトーンが落ち着きました。



下記に今年度の子育て講話の一部を写真で紹介する。



稲田弘子先生



戸高翼先生



中村真理子先生(1)



中村真理子先生(2)



田村省悟先生



田中陽子先生

### 第3章 子どものための地域情報誌「キッズワールド」

「キッズワールド」は7月・12月・3月の年3回、学校等の長期休業前に発行している。発行まで号数ごとにそれぞれ2回ほどの編集会議を経ている。なお、キッズワールドの配布先は以下の通りである。

表4 キッズワールド配布先一覧表

キッズワールド配布先一覧表(平成30年度)			
学校・幼稚園		社会教育施設・団体	
小学校(28)	5,011	社会教育センター	15
許可保育所・認定子ども園(43)	2,768	市立図書館	15
許可外保育施設(10)	218	市立図書館・北方分館	15
児童福祉施設		市立図書館・北浦分館	15
山下児童館	15	北浦公民館	15
中島児童館	15	市立図書館・北川分館	15
旭児童館	15	一ヶ岡コミュニティーセンタ ー	15
緑ヶ丘児童館	15	塩浜教育集会所	15
ゆりかご児童館	15	リバーパル五ヶ瀬川	15
こばと児童館	15	九保大(子どもセンター)	200
ひかり児童館	15	子どもセンター運営委員	12
おやこの森	15	ボーイスカウト/ガールス カウト	30
さくら園	15	宮崎県	
病院等		県生涯学習課	2
育児サークル(社協内)	15	北部教育事務所	2
おきしま小児科	15	市役所	
藤本内科小児科医院	15	東海支所	15
ほうしやま子どもクリニック	15	伊形支所	15
県立延岡病院内 キッズルームお ひさま	15	島浦支所	15
松崎医院	15	南浦支所	10

施設等			
ヘルストピア	15	北方町総合支所	15
延岡総合文化センター	15	北浦町総合支所	15
延岡セントラル	15	北川町総合支所	15
須美江家族旅行村	15	本庁舎総合案内	15
ETOランド速日の峰	15	健康管理センター	15
むかばき青少年自然の家	15	記者室	12
おやこ劇場	15	その他	
		予備	150
		合計	9,000

## おわりに ～次年度に向けた取り組みと課題

ここまでセンターの今年度の活動を振り返ってきたが、最後にセンターの次年度に向けた方向性と課題について述べて、本報告のまとめとする。

平成 14 年度のセンター発足以来、今年度で 17 年が過ぎた。聖心ウルスラ学園短期大学や本学（九州保健福祉大学）が延岡市（教育委員会）との連携の中で育ててきたセンターの歴史は、他の市町村にないユニークな取り組みである。かつて学校教育の見直しから、子どもを学校から解放し毎週土日には家庭や地域に返そうとする学校週 5 日制の導入を受け、その受け皿の一つとして子どもセンター事業は国の主導のもとに始まった。しかし長年の「ゆとり教育」の反動もあり、平成 27 年度からは延岡市でも土曜日の学校教育復活がついに現実のものとなった。また国は平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連 3 法」を制定し、平成 27 年度から「子ども・子育て新制度」が市町村を実施主体としてスタートした。

そして前述の通り、平成 30 年 11 月に長年の少子高齢化問題や児童虐待の増加、核家族化、地域社会のつながりの希薄化等を背景に、国(文部科学省)は「家庭教育支援チーム」の手引書を作成して、子育て支援のさらなる対策の方向性を打ち出した<sup>2)</sup>。

このように激しく変化する時代にあってセンターに何ができるのか、新たな目的や目標を再考する時期に来ているものと思われる。延岡市を中心とする県北部地域の子どもたちは紛れもなくこの地域に存在し、日々成長するために大人の手助けを必要としている。また同様に保護者に対する支援もこれまで以上に必要とされるだろう。さらなる地域人材の活用を図り、新たな支援システムを構築していく時代が来ていると感じる。

次年度は新たな運営委員やスタッフを広く登用し、喫緊の子育て支援の課題に向けた 18 年目の新たなセンターの活動を進めていきたい。

## 謝辞

例年のことながら事務局を担う延岡市教育委員会、また施設の活用や子育て講話講師の派遣等に積極的に協力いただいた九州保健福祉大学、各学部と各学科、そしてセンターに協力いただいた地域の様々な団体や個人の皆様に厚く御礼申し上げます。また年間を通して夜間に及ぶ会議を重ね、企画・運営に携わる運営委員の皆さん、毎回活動に参加してくれる保護者や子どもたちなど、多くの方々の思いと行動によって、今年度もセンターの活動が充実したものとなりました。ここにあらためて感謝申し上げます。

## 引用

- 1) 文部科学省 [www.mext.go.jp/b\\_shingl/.../1355466\\_3pdf](http://www.mext.go.jp/b_shingl/.../1355466_3pdf).
- 2) 文部科学省 [www.mext.go.jp/a.menu/shougai/katei/1410457.htm](http://www.mext.go.jp/a.menu/shougai/katei/1410457.htm).

## 参考文献

- ・ 社団法人全国社会教育委員連合編 『社教情報』 NO.79. 2018.
- ・ 伊藤俊夫編 『新しい時代を創る社会教育』 (財)全国社会教育連合会 2010.
- ・ 『「のべおか子どもセンター」16年目の活動報告』 九州保健福祉大学 QOL 研究機構 社会福祉学研究所 2017.